

【歴史総合】pdfを次のメッセージで送るから内容を講義して

了解しました！

PDFを次のメッセージで送っていただければ、内容をしっかり読み込んで、【歴史総合】の授業っぽく、わかりやすく講義形式で説明します。

- 教科書的なポイントを押さえつつ
- 重要事項・流れ・因果関係を整理
- 高校生がテストやセンターで狙われやすいところも意識
- 必要に応じて地図・年表・人物相関などのイメージも補足

みたいな感じで進めますね。

ファイルが届いたらすぐ始められるように待機します！

どうぞよろしくお願いします

これおねがい

PDF 20.pdf

⌚ 46s 考えました

【歴史総合】講義：第一次世界大戦とロシア革命

みなさん、こんにちは！今日はアップロードされたPDFの内容を基に、【歴史総合】の授業を進めていきます。この資料は、第一次世界大戦の勃発から終結、そしてロシア革命とその余波（シベリア出兵）までをカバーしたものです。高校の教科書レベルで、流れを整理しつつ、因果関係を明確に。テストで狙われやすいポイント（例：事件の年月、人物の役割、戦後の影響）も強調します。年表や人物相関、地図のイメージも補足して、イメージしやすくしますね。

授業の流れ：

- **Part 1: 第一次世界大戦の概要**
- **Part 2: 大戦の勃発**
- **Part 3: 総力戦の展開**
- **Part 4: 戦争の終結**
- **Part 5: ロシア革命とシベリア出兵**

最後にまとめとテスト対策のTipsを。では、始めましょう！

Part 1: 第一次世界大戦の概要

第一次世界大戦（1914-1918）は、ヨーロッパ中心の列強間の対立が爆発した総力戦で、史上初の「世界大戦」となりました。死傷者約3,700万人（軍人・民間人含む）と膨大で、新兵器（飛行機、潜水艦、戦車、毒ガス）の登場が特徴。原因是帝国主義・民族主義の激化で、三国同盟（ドイツ、オーストリア=ハンガリー、イタリア）vs三国協商（イギリス、フランス、ロシア）の同盟対立が背景。戦後、ヴェルサイユ体制が生まれましたが、不満が第二次世界大戦の遠因に。

年表のイメージ（簡易版）：

年月	出来事
1914.6	サライエヴォ事件（勃発の引き金）
1914.7	オーストリアのセルビア宣戦 → 連鎖的に大戦へ
1917.4	アメリカ参戦
1918.11	ドイツ革命 & 休戦条約（終結）

地図のイメージ補足: ヨーロッパ地図で、西部戦線（フランス・ベルギー辺りで塹壕戦）、東部戦線（ロシア vs ドイツ）。バルカン半島（サライエヴォ）が火薬庫でした。想像すると、ピンクの協商国 vs グリーンの同盟国みたいな色分け。

Part 2: 大戦の勃発

大戦はバルカン半島の民族対立から始まりました。オーストリア=ハンガリー帝国の支配下で、セルビア人（スラヴ系）が「大セルビア主義」を掲げて独立を求める中、事件が発生。

- ① **サライエヴォ事件 (1914.6):** オーストリア皇太子夫妻がセルビア人青年ガブリロ・プリンツィプに暗殺。暗殺者は「黒手組」という秘密結社所属で、大セルビア主義の象徴。
- 因果関係:** オーストリアがセルビアに最後通牒 → セルビア拒否 → オーストリア宣戦 (1914.7)。これが連鎖: ロシア（スラヴ保護）が動員 → ドイツがロシア・フランスに宣戦 → イギリス参戦。
- 参戦国:** 同盟側（ドイツ、オーストリア=ハンガリー、オスマン帝国、ブルガリア）。協商側（イギリス、フランス、ロシア、日本、イタリア(1915移籍)など）。
- テストポイント:** 「サライエヴォ事件は大戦の直接的原因。暗殺者はプリンツィプ、場所はボスニアのサライエヴォ（オーストリア領）」。

人物相関: プリンツィプ（暗殺者）→オーストリア皇太子フランツ・フェルディナント（被害者）。これで同盟システムが作動し、短期決戦の予定が長期戦へ。

Part 3: 総力戦の展開

短期戦の予定が、西部・東部戦線で膠着。両陣営が国家総動員（⑥総力戦）へ移行。戦争継続のため、経済・社会を軍事に総動員。

- ⑥総力戦体制の特徴：

- 政府主導の産業統制：軍需優先、食糧配給制。
- 女性の労働動員：男性が戦場へ → 女性が軍需工場・兵站で活躍（戦後、女性参政権拡大へ）。
- 労働組合・社会主義政党との協力：スト回避のため。
- 植民地活用：兵士・労働者・物資供給（アフリカ・アジアから）。結果、植民地で民族意識高揚 → 独立運動の種。
- 因果関係：塹壕戦の長期化（例：ヴェルダン戦）で資源枯渇 → 総力戦。戦後、福祉政策拡大（女性労働の影響）。
- テストポイント：「総力戦は国家総動員。女性参政権や植民地民族主義の遠因」。

新兵器のイメージ: 毒ガス（マスタードガス）、戦車（イギリス製マークI）、潜水艦（Uボート）。これで犠牲者激増。

Part 4: 戦争の終結

中盤でロシア離脱（革命で）、ドイツの攻勢が失敗。アメリカ参戦が決定的。

- ⑦無制限潜水艦作戦（1917）：ドイツが軍船・民間船無差別攻撃宣言。目的：イギリス封鎖。
 - ルシタニア号事件（1915）：イギリス客船撃沈、アメリカ人犠牲 → アメリカ激怒。
 - アメリカ参戦（1917.4）：協商側で。戦局逆転。
- ⑧ドイツ革命（1918.11）：キール軍港水兵反乱 → 全国へ。戦争継続への反感爆発。
 - ⑨ヴィルヘルム2世亡命：皇帝退位、ドイツ帝国滅亡。
- 休戦条約調印（1918.11）：ドイツ臨時政府が協商国と。第一次世界大戦終結。
 - 因果関係：無制限潜水艦 → アメリカ参戦 → 同盟側劣勢 → ドイツ国内反乱 → 終戦。
 - テストポイント：「アメリカ参戦のきっかけはルシタニア号と無制限潜水艦。終結は1918.11、ヴィルヘルム2世亡命」。

犠牲者の規模: 長期戦 + 新兵器で膨大。ヨーロッパの人口構造が変わるほど。

Part 5: ロシア革命とシベリア出兵

大戦中、ロシアの苦戦が革命を引き起こし、共産主義国家誕生。背景: 専制君主制（ツアーリズム）の腐敗 + 戦争負担。

- **日露戦争後のロシア第一革命 (1905):**

- 原因: 日露敗北 + 専制批判。
- ②**血の日曜日事件 (1905.1)**: 首都①ペテルブルクでデモ隊銃撃 → 革命拡大。
- ③**ソヴィエト結成**: 労働者・兵士の評議会（初のソヴィエト）。
- ④**ニコライ2世**: 講和（ポーツマス条約）+憲法・議会（ドウーマ）約束で鎮圧。
- **テストポイント**: 「血の日曜日は革命のきっかけ。ソヴィエト初登場」。

- **二月革命 (1917.3):**

- 原因: 大戦長期化 + 食糧不足。
- ⑤**ペトログラードデモ**: パン要求 →スト + 反戦拡大 → 臨時政府発足、ニコライ2世退位。
- 二重権力: 臨時政府（戦争継続） vs ソヴィエト（反戦）。

- **十月革命 (1917.11):**

- ⑥**ボリシェヴィキ**: マルクス主義急進派。
- ⑦**レーニン**: 指導者。「平和・土地・パン」スローガンで武装蜂起 → 臨時政府打倒。
- 「土地に関する布告」: 農民に土地分配。「平和に関する布告」: 即時停戦。
- **テストポイント**: 「レーニンはボリシェヴィキ指導者。二月はブルジョワ革命、十月は社会主義革命」。

- **ブレスト=リトフスク条約 (1918.3)**: 対ドイツ単独講和。領土割譲でロシア大戦離脱。

- **ロシア内戦 (1918-22):**

- ⑧**赤軍 (ボリシェヴィキ) vs 白軍 (旧勢力、ツアーリスト)**。
- 外国干渉: 日本・アメリカ・イギリスなど（⑨干渉戦争）。日本はシベリア出兵（1918-22）、極東支配狙い。
- **トロツキー**: 赤軍組織。
- 結果: 赤軍勝利。戦時共産主義（強制徴収）で経済崩壊 → **ネップ (新経済政策, 1921)**: 市場一部自由化。

- ソ連成立 (1922.12): ソビエト社会主义共和国連邦。レーニン死後 (1924)、スターリン台頭。

地図のイメージ補足: シベリア地図で、日本軍進路（ウラジオストク → ハバロフスク → イルクーツク）。内戦はロシア全土、白軍はウクライナ・シベリアなど分散。

人物相関:

- ニコライ2世（皇帝、退位）→ レーニン（ボリシェヴィキ指導、ソ連樹立）→ トロツキー（赤軍）→ スターリン（後継、1925-）。
- 白軍: コルチャーカ、デニーキンなど。

因果関係: 大戦負担 → 二月革命 → 十月革命 → 内戦 + 干渉 → ソ連誕生。戦後、共産主義の国際的脅威に。

まとめとテスト対策Tips

- 全体の流れ:** バルカン対立 → 大戦勃発 → 総力戦 → アメリカ参戦 & ロシア革命 → 終結。ロシア革命は大戦の副産物で、世界初の社会主义国家誕生。
- 影響:** 女性・植民地意識の高揚、ヴェルサイユ条約の不満（ヒトラー台頭の種）。
- Tips:** 年月を覚えろ（1914.6サライエヴォ、1917.3二月、1917.11十月、1918.11終結）。人物: プリンツィプ、レーニン、ヴィルヘルム2世。地図問題でバルカン・シベリアが出やすい。センター対策: 因果を矢印で繋げて暗記。

質問あつたらどうぞ！ 次回は戦後秩序かな？ 頑張ってね！ 🙌

- ヴェルサイユ条約の詳細
- 日露戦争の影響
- 年表を詳細化